

平成27年度第1回相生市総合教育会議 会議録

日 時	平成27年4月30日（木）13時00分から14時06分
会 場	市役所1号館 3階 議員控室
出席者	谷口 芳紀 市長 武本 尚 教育委員長 田口 晴喜 教育委員長職務代行 山本 綾子 教育委員 栗原 英子 教育委員 浅井 昌平 教育長
説明員	越智 俊之 企画総務部長 玉田 直人 教育次長（管理担当） 能本 英樹 教育次長（指導担当） 宮崎 義正 管理課長兼生涯学習課主幹 坂本 浩宣 学校教育課長 西角 隆行 生涯学習課長 小西 まこと 体育振興課長 横山 和彦 人権教育推進室長 三浦 貴史 管理課副主幹（書記）
傍聴者	1名

1 開会

2 市長挨拶

この会議は、本市教育の基本となる大綱の策定、また、教育における重点的な施策などをご協議いただく新たな重要な会議である。

いま、政府は地域の特性を生かして活性化を図る地方創生を掲げており、公立学校でも英語教育の充実を図り、結果として移住者を呼び込むことに成功をしたというような例もある。

私はこれから、「教育」を相生市創生の柱に据えたまちづくりを強く推し進めてまいりたいと考えている。

これまでは、特に「相生市教育三本の矢」として、「ぐんぐん学力アップ事業」、「相生っ子学び塾」、「市民さわやかあいさつ運動」を教育委員会とともに推進してきた。

これからも、これまで進めてきた事業を推進し、今後は「教育」、「子育て支援」、「まちづくりのための人材育成」を核として、相生市創生に向けて多方面に施策を展開してまいりたいと考えている。

3 会議の目的説明

法改正により相生市総合教育会議を設置することとなった。相生市での総合教育会議の開催は、通常年2回を予定しており、年度初め頃に当該年度の方向性についてご協議いただき、秋ごろに予算要求案についてご協議いただく。

4 協議事項

(1) 相生市総合教育会議要綱の策定について

事務局提案の相生市総合教育会議要綱(案)を決定

【ポイント】

会議の公開・非公開について

傍聴の遵守事項について（相生市教育委員会傍聴規則を準用）

(2) 大綱の策定について

総合教育会議としては、教育振興基本計画を大綱に代えるということで決定された。大綱の策定は、総合教育会議の協議を受け、市長が策定することとなっており、本日の協議結果に基づき、事務手続きを進める。

【協議の流れ】

教育次長（管理担当）

「大綱の策定にあたっては、教育振興基本計画を策定している自治体においては、総合教育会議で教育振興基本計画を大綱として代えると判断した場合、大綱を策定する必要が無い」と文部科学省の見解がある。

谷口市長

大綱については、相生市教育振興基本計画が平成23年度から10年間の相生市教育の基本指針を定めたもの。今年度は中間年ということで見直しを行うとのことで、教育施策全般において、大綱的に策定されており、これを大綱に代えることで充分ではないかと思う。

武本委員長

現在の相生市教育振興基本計画については学校教育審議会、社会教育委員会に諮問を図り、充分審議いただいたものを、教育委員会として策定した。

この教育振興基本計画を大綱に採用いただくことは、教育委員会としては、むしろ安心したということで異議はない。市長のご意見に賛同する。

各委員

異議なしの声

協議事項（３）相生市の教育に関する重点施策について

ア 平成２７年度の重点施策について

事務局が資料に基づき説明（了承）

【概要】

市内小学校校舎等防災対策事業により今年度耐震化を完了。

小中一貫教育の推進、わくわくふれあい給食、幼稚園から中学校までコミュニケーション能力を高めるためイングリッシュチャレンジ事業を実施。

仮称・相生市文化会館管理を平成２８年４月オープンに向けた準備。

温水プール天井改修事業によりスポーツ施設の耐震化を推進。

ケータイスマホ教室の実施により、ルールやマナーの大切さを学ぶ。

協議事項（３）相生市の教育に関する重点施策について

イ その他について

教育次長（管理担当）

総合教育会議は市長と教育委員会が、教育に関する諸条件整備や重要施策について協議や意見調整を行っていただく会議となっている。市長と各委員による自由意見交換を行っていただきたい。

武本委員長

相生市の場合、教育委員会と市長との関係が、総合教育会議を開くまでもなく、非常に良い関係が築けていると思っている。今回新しい教育委員会制度が出来たが、市長と私の思っている考えは一致しているので、よりスピーディーにいろいろな施策が実行できるのではないかとということで非常に期待している。

これからも教育委員の立場としてあくまでも、市民の感覚、教育を受ける子どもたちの目線で物を見ていきたいと思っている。

谷口市長

私も全く同感である。

これまで教育委員会とは、よく連携を取りながら私自身もやらせていただいたので、引き続いてよく連携をとりながら、やらせていただきたい。

今後の教育について私の考えを２点申し上げたい。

１点目は、今年度から小中一貫教育に取り組む。小中一貫教は、義務教育９年間で、児童生徒を育てるという視点に立ち、一貫性のある指導により、「高い志を持った」子どもたちを育成いたしたいと考えている。

2点目は、仮称・相生市文化会館についてである、平成28年度のオープニングに向け、特に運営面において、市民による市民のための文化芸術の拠点として、また、市民の皆様の交流・賑わいの空間の創出、世代を超えた生きがい発見の場となるよう、様々な取り組みに努めていただきたい。

教育は、相生市の将来を左右する極めて根幹的な施策であると考えている。

田口委員

谷口市長の教育にかける熱意を感じる。相生市は非常にユニークな施策を行って上手くいっている。教育委員会としてもいろいろな施策を行って、上手く行っていると考えている。給食無料などは非常に分かりやすく、他の市民から見ても非常に関心度が高い事業であると思っている。

ここでもう一つ、こういうことを考えたらどうかと思うのは、ストレートで分かりやすい「賢い子を育てるには相生へ」こんなキャッチフレーズで数値目標を設定し、発信し、ソフト面に目を向けて、相生の子どもの学力を上げていくのも悪くはないかなと思う。

谷口市長

非常に良いご意見だと思うが、公教育としては、プラス落ちこぼれの無い子どもたち、ボトムアップしていくのも必要だと思う。両方出来れば、なお良いと思う。

栗原委員

ある教科に特化して、というのもあるが、いろいろなことに興味を持てる子どもをつくっていくということも大事だと思う。

山本委員

子どもたちの本当の学力とは何か、やはり道徳的な気持ち、優しさ、思いやり、そして相生を愛する、故郷を愛する心、そういうものを根っこに育てながら、自分の力を付けていく、そして、自分は何に優れているのか、何に向いているのかということを見ながら、将来の子どもたちが本当に幸せになってくれたらという思いで、これからの相生の教育は取り組みを重ねて行っているし、継続して積み上げていくことで力が付いていくのかなと思う。

武本委員長

生きる力を付けさせるということは非常に大事な教育目標であるが、生きる力とは、非常に深いテーマになると思う。具体的に見ていくと、まず、中学3年生が高校へ進学する。希望した高校に合格する。これは最小限のステップだと思う。

有名校に入るだけでなく、子どもたちが自分の行きたい学校に合格するという、学力をそれぞれの子どもにつけるということが大事ではないかと思う。生

きる力と結びつくと思う。そのために小中一貫教育というのは、そういう面で、教育成果を反省し、考え直す非常に良い取り組みだと思っている。先生方も、子どもたちが志望する学校に入れることが出来なかった時には、真摯に自分の教育を反省する。そういうことを一つのテーマにして欲しい。相生市に行けば志望校に行けるというそういう学力の環境づくりが大事ではないかなと思う。

田口委員

委員長が言われることは非常に分かりやすいと思う。

競争がないという社会はない。その激しい競争に打ち勝たなければならない。教育の現場に競争ばかり入れるのは、山本委員さんが言われるようにどうかと思うが、現実には、競争社会に生きているわけだから、自分の希望校に入れるということが、まず競争に打ち勝つ一つかもしれないと私は思う。

栗原委員

志望する学校に入ることは大事な事であるが、学習を落ち着いてする態度というのはやはり幼児期から家庭がどのように接しているかということで、すごく大きな違いがある。小さいとき、小学校の低学年か、その前がすごく大事だと思う。相生は幼稚園が幸いに3歳から公の幼稚園が受け入れているので、小中一貫教育ももちろん大事であるが、最初の土台となるそののところに、もう少し目を向けていただきたい。

谷口市長

おっしゃるとおりであるが、いろいろな家庭がありまして、それをカバーするために今、相生市では、市全体で、地域全体で見守って育てていこうという施策を進めている。

浅井教育長

義務教育の基本は、機会の均等、学力保障、無償化となっているが、相生の教育については、かなり高い時点で実現されていると思う。

教職員に、今の教育はまちづくりの中の一つとして見なければ、視点が狭くなりますよ、教育はあくまでまちづくりの一環として見てください。と話をさせていただいている。子どもたちの成績の話がございましたが、子どもの成績としてだけ評価すれば、少し違っていると思う。そういった結果は教育行政に携わる者の政策の評価だと受け止めてやっていく必要があるのではないかなというように考えている。

私の方から学校教育の分野で2点、述べさせていただきたい。

1点目は小中一貫教育。2点目は小中学校の適正配置について。

まず1点目の小中一貫教育については、今安定しているこの時期にこそ、小中一貫教育を導入する意義があると考えている。小中学校の落ち着きについては、幼稚園や保育所での幼児教育の充実が大変大きく影響していることも確かであ

る。相生市の幼児教育は他の市町に比べても大変充実している。谷口市長には、教育、子育ての充実として多額の教育予算を計上していただいております、その期待に添うべく、教育施策の遂行に努めていきたい。

2点目の小中学校の適正配置については、数合わせの統廃合ではなくて、教育の充実、あるいは、特徴ある教育の実現に繋がるように配慮をしてきたところである。現在、凍結となっているが、子どもの数が偏在しており、統廃合の必要性は依然あると判断している。そのような中から、少人数であることのデメリットを減らす、少人数のメリットを生かす取り組みを現在しているところである。当分の間は6幼稚園、7小学校、3中学校という現状の配置で、関係者やご地元のご意見を聞きながら、教育委員会でも協議をしてまいりたく考えている。今回、相生市教育振興基本計画が中間年の見直しがあり、基本計画の中にも統廃合についての項目もあるので、学校教育審議会の中でもそのあたりについてご審議をいただいで、ご意見を頂戴いたしたいと考えている。

武本委員長

教育委員会の所管として、学校教育というのは、非常に大きな柱であるが、他に生涯学習、スポーツ振興なども所管になっている。特に相生市の場合は、これからは高齢者の比率が高まっていく中で、高齢者が楽しく生活を送れるようなそういう施策、高齢者が住みやすいまちという視点も大事だと思うので、そのあたりもこれから取り組んでいただきたい。なぎさホールを核に、兵庫県、全国で光るようなそういうまちになればと念じている。

谷口市長

グローバルで競争の激しい時期になってきました。田口委員がおっしゃられたことも無下にできないと思っている。それにプラス、今言われたように、どこの自治体も同じようなことを考えていると思う。

相生市の教育の特徴を打ち出せるものがあれば、作っていただいで、それを大いにPRできたらと思う。相生市の教育の特徴を考えてみてほしい。

浅井教育長

グローバル化の意識、そういった事は大切かなと思います。

谷口市長

子どもの貧困も重視する問題だと思う。奨学金の充実など貧困世帯の子どもの対策はこれからやっていかなければという思いがある。

武本委員長

給食の無料化というのは、教育の面から見ても行き届いた政策だと思う。

学校の先生が困られている、給食費の未納の家庭に集金、子どもの心の安定な

ど、教育の面からしても本当に素晴らしいことだと思う。これは、頑張っていて欲しくて欲しいと願っている。

谷口市長

同じものをみんなが一緒に食べるというのは情緒も安定する。

教育次長（管理担当）

多くの意見、また具体的なご提案をいただき、ありがとうございました。

今回いただきましたご意見、すぐにご回答というわけにはいきませんが、次回本会議の場におきまして改めてご協議をお願いいたします。また、その協議結果により、予算措置が必要な事項については、翌年度以降の予算措置について反映できるよう努めてまいりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

閉会の挨拶

武本委員長

本日、初めての会議でありましたが、私がイメージしていた以上に充実した会議であった。会議の益々の充実、発展期待している。

第1回相生市総合教育会議を終了